

プレミアム付商品券発行事業(第3弾)

1億2730万円(うち国庫支出金1億2683万6千円)

物価高騰の影響を受けた市民の家計負担の軽減及び市内事業者を支援するため、プレミアム付商品券を発行する。なお、紙媒体による発行だけでなく、電子化した商品券を発行し、キャッシュレス化の推進を図る。



商品券の概要

- 5,000円相当の商品券を4,000円で販売(プレミアム率25%)
- 1セットの内容
 - ・大型店舗でも使える「共通券」2,500円分
 - ・大型店舗以外の店舗のみで使える「専用券」2,500円分
- 購入対象者等
 - ・購入対象者 事前申込は市民のみ
 - ・購入申込期間 令和5年8月下旬～9月上旬
 - ・販売期間 令和5年10月上旬
 - ・購入枚数 1人10セットまで
 - 使用期間 令和5年10月～令和6年1月
 - 発行額
 - ・電子 200,000千円(40,000セット)
 - ・紙 200,000千円(40,000セット)
 - 計 400,000千円(80,000セット)

令和5年6月定例会

令和5年度補正予算 24億4183万円 補正後317億9889万1千円

【主な歳出】

低所得世帯支援給付金給付事業	2億2999万円
プレミアム付商品券発行事業	1億2730万円
田代大官町・萱方線等道路事業	8450万円
飯田・酒井東線等道路事業	1億1200万円
飯田・水屋線等道路事業	9800万円
道路改良事業(加藤田町入口)	3100万円
道路維持・舗装費	1億700万円
50戸連たん区域指定事業(今町)	370万円
鳥栖駅周辺整備事業(調査経費)	719万円
公園施設長寿命化事業	3億2170万円
旭小学校大規模改造事業	3030万円
基里中学校大規模改造事業	950万円
放課後児童クラブ整備事業	1億3166万円
歴史・文化交流発信施設整備事業	3300万円

より良い鳥栖に
わくわく宣言

発行者:
西依義規
〒841-0005
鳥栖市弥生が丘
2-110-1
TEL090-1874-2107
e-mail:
waku2sg@gmail.com

■目的
鳥栖市では、工業を中心とした産業の立地が進んでいること、また、九州新幹線の開通により福岡都市圏への通勤、通学の交通の便が向上し住宅用地の需要が伸びていますが、市街化区域では大規模な住宅開発が可能な土地が少なくなっています。将来目標人口「2060年に7万5千人〜7万7千人」を踏まえ、人口増の受け皿となる住宅用地の適地調査及び確保手段の検討を行ったものです。

■期間
令和4年7月から令和5年3月まで

■調査方法
・市周辺の地形や人口動態を調査し、将来目標人口を収容できる住宅用地の面積を算出。
・人口集積度や公共交通利便性、路線価など、生活利便性に係る指標と災害リスクに係る指標を評価。また、法規制条件や上下水道などのインフラの有無等を勘案。
・二次候補地を選定後、開発適性(接道などの必要要件)について検証し、最終候補地6箇所を選定。



神辺町約6.8haの写真(袖比町側から撮影)

■最終候補地

○萱方町	約4.6ha
○本鳥栖町	約1.0ha
○山浦町	約1.8ha
○原古賀町	約1.1ha
○山浦町	約1.6ha
○神辺町	約6.8ha

○市街化区域では約8.5ha、
○市街化調整区域では約8.4ha、
約600世帯(約1440人)の受け皿を確保できる見込みです。

■備考
今後、「地区計画」の候補地を検討する際に活用。

住宅用地検討調査業務(昨年度からの継続) 萱方町・神辺町など 最終候補地6箇所を選定

鳥栖市の不登校対策 子どもの視点に立った様々な支援を



【西依(質問)】
■校内フリースクールを導入している自治体もあるが、不登校対策に今後どのように取り組むのか。

【教育長(答弁)】
■不登校というだけで問題行動であると受け取られないように配慮し、また児童生徒の意思を十分に尊重し、狭義の学校復帰を目的とせず、児童生徒の学習する権利を保障し、個に応じた社会的自立に向け、幅広い支援をしていきたいかなければならないと考えております。特に教育支援センター「みらい」の活用については、これまで以上に支援の有効な場となるよう、周辺を含めた施設環境を生かした活動を広げるなど、魅力ある学びの場となるよう取り組んでいきます。

子どもたちにとって 安全で豊かな放課後とは

【西依(質問)】
■放課後児童クラブの待機児童の解消は、いつまでに、どのような目標をもって、どのように取り組むのか。

【教育部長(答弁)】
■本市における、放課後児童クラブの状況は、令和5年5月1日現在で、待機児童が通年65名、長期のみ利用74名、合計139名発生し、鳥栖小、鳥栖北小、麓小のなかよし会においては、通年の小学3年生が待機になるなど、非常に厳しい状況でございます。また、放課後児童クラブの需要は、当面、現在と同等または増加することが見込まれますので、本年度、鳥栖北小なかよし会B.C、鳥栖小なかよし会B.C、麓小なかよし会B.Cクラスの建設を行い、まずは小学3年生までが入会できるような施設の確保を行いたいと考えております。

【西依(提案)】
■目指す姿:子どもたちに安全で豊かな放課後を
●令和5年度、放課後児童クラブ施設の確保と待遇改善による指導員

員の確保する。鳥栖市の子どもたちにとっての放課後の在り方を検討する。
●令和6年度、放課後子ども広場(放課後児童クラブに入れなかった児童が登録)を各小学校で開設するための検討、小学校、地域との協議。
●令和7年度、放課後子ども広場(わくわく広場)を待機児童が多い小学校で開設する。
※わくわく広場とは
・児童の遊びの時間や自主学習(宿題)のサポートをして一緒に過ごす。
・小学校の空き教室で、入室児童を保護者等が迎えに来る時間まで安全に見守る。
●令和8年度、放課後児童クラブの待機児童はゼロになる。



員の確保する。鳥栖市の子どもたちにとっての放課後の在り方を検討する。
●令和6年度、放課後子ども広場(放課後児童クラブに入れなかった児童が登録)を各小学校で開設するための検討、小学校、地域との協議。
●令和7年度、放課後子ども広場(わくわく広場)を待機児童が多い小学校で開設する。
※わくわく広場とは
・児童の遊びの時間や自主学習(宿題)のサポートをして一緒に過ごす。
・小学校の空き教室で、入室児童を保護者等が迎えに来る時間まで安全に見守る。
●令和8年度、放課後児童クラブの待機児童はゼロになる。

地域公共交通のあり方を検討 ミニバスの増便で毎日運航を



【西依(質問)】
■市議会でも政策協議会を立ち上げ、地域公共交通のあり方を協議する動きがある。市長公約の「高齢者の移動手段確保に取り組み。」では、バス路線の再編やミニバスの増便(台数増・毎日運行)なども検討されるのか。

【市長(答弁)】
■「バス路線の再編やミニバスの増便なども検討されるのか。」につきましては、地域公共交通の在り方について検討することとしており、その中で検討していくものと考えております。

※令和5年9月定例会は、9月1日に開会予定で、一般質問は9月8日から開催されます。ぜひ議会傍聴またはインターネット中継をご視聴ください。
公式HPには、過去の一般質問や重点政策などを載せています。

国・県に要望するだけでは進まない鳥栖市のグランドデザインを

【西依(質問)】
 ■公約「新鳥栖駅東側整備と山浦IC設置を進める。」について、これまで(仮称)山浦スマートインターチェンジ(SIC)が設置できなかった理由を市長はどう分析されているのか。また、要望以外に鳥栖市としてできることは何か。

【市長(答弁)】
 ■本市は、高速道路や幹線道路などが結節する「交通の要衝」として発展をしてきており、今後も、広域的な人や物の交流拠点としての重要度が増してくることを考えますと、高速道路を最大限に活かしたSICの設置が必要であるものと認識しております。

現時点におきまして、「山浦SIC」につきましては、SICを設置するために必要な、「まちづくりのあり方」や「土地利用構想」等の方向性について、検討する必要がありますと考えております。

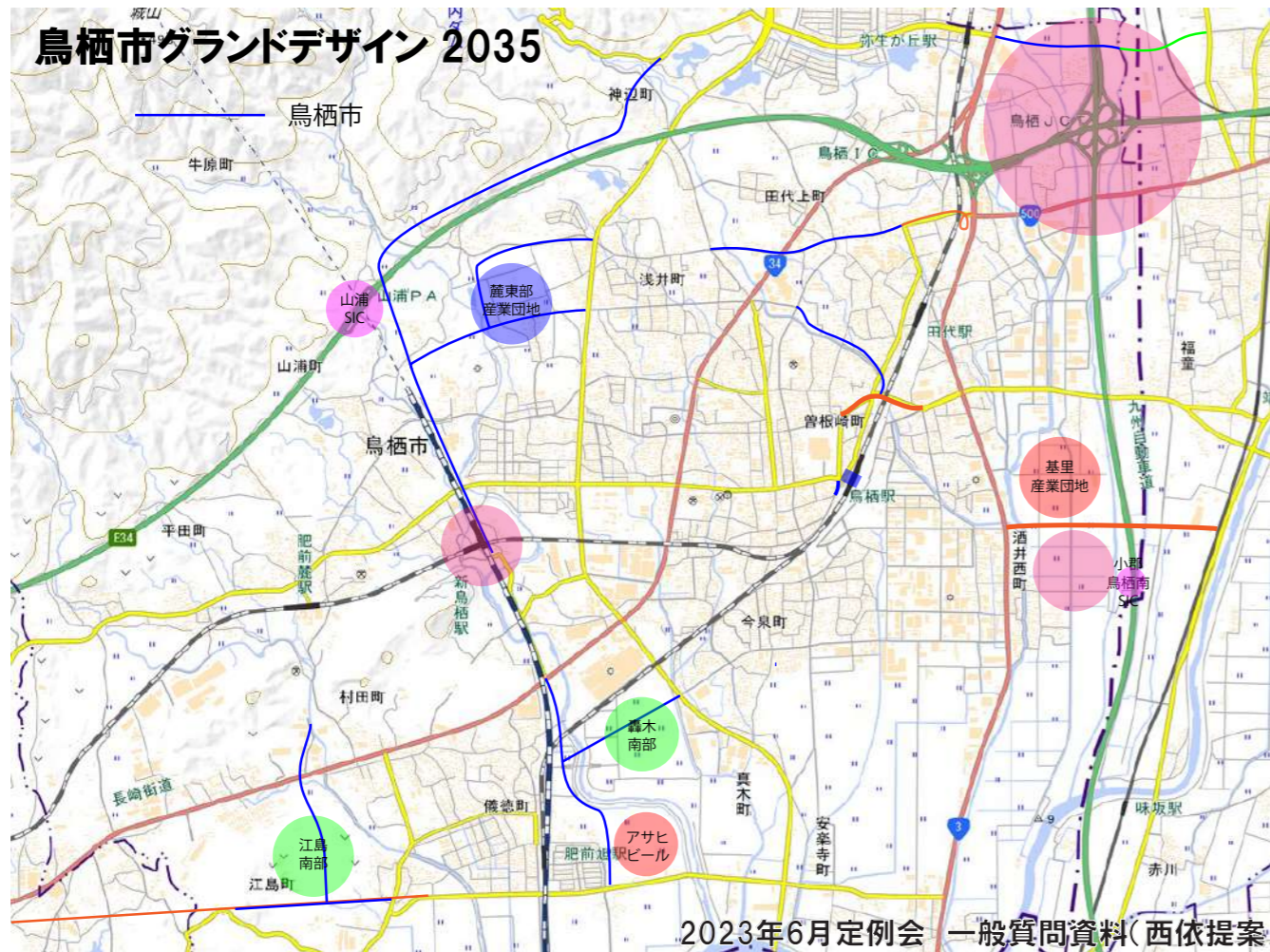
【西依(質問)】
 ■公約「渋滞緩和対策を促進する。」について、「いつまでに」「どのような目標を持って」「どのように取り組む」のか。

【市長(答弁)】
 ■「国道」「県道」及び「市道」は、市民の皆さまが生活する上で、密接に関連するものでございます。このため、国や県に対しましては、現在、事業を進めていただいている道路整備の早期完成、また計画未策定路線の早期計画の策定など、様々な機会とおして、要望してまいります。幹線道路等の混雑緩和に向けては、国・県・市の協力が重要になってまいりますので、関係機関と連携を図りながら、取り組んでまいります。

【西依(提案)】
 ■山浦SIC設置と渋滞緩和対策のために鳥栖市ができることは、まずは、山浦SICの必要性を高めるために麓東部地区を産業団地の候補地とし、市道の整備も検討する。

また江島南部産業団地なども、候補地とし、企業誘致の用地確保し、そこに渋滞緩和対策としても高架のある市道の整備を進めるといった方針を描いた鳥栖市のグランドデザインを描くことが必要です。

国や県に要望するだけで、鳥栖市が何もしなければ、一向に進みません。産業団地と道路整備をセットにした開発を進めることが重要ではないでしょうか。



6月議会一般質問

市長選公約について



東口設置は可能なのか連続立体交差化は残すのか

【西依(質問)】
 ■公約「鳥栖駅周辺整備に向け、東口の設置や東西道路の連携などに取り組む。」について、東口設置は、これまでも鳥栖市として要望してきたが、叶わなかった。それを踏まえ、実現に向けてどのように考えているのか。

【市長(答弁)】
 ■鳥栖駅周辺整備につきましては、本市のまちづくりにとって欠くことのできない重要な施策で、整備につきましては、短期・中期・長期

期の施策に分けて取り組む必要があり、短期施策としては、利便性向上等のため、まずは鳥栖駅東口設置などの実現可能性について検証したいと考えております。

【西依(質問)】
 ■連続立体交差化を残したままで可能な、東西道路の連携とは。このままでは何十年も高橋は手付かずの状態になるが、それでもいいのか。

【市長(答弁)】
 ■鳥栖駅周辺の東西道路の連携につきましては、本市における長年の懸案事項であり、非常に重要な課題であり、鳥栖駅周辺の整備手法に影響されるため、簡単には解決できない難しい課題であります。一方で、県道鳥栖停車場曾根崎線の高橋(下の写真)における交通混雑につきましては、基里地区からのご要望もあり喫緊の課題であると認識しており、関係する皆様としっかり議論する必要があると考えております。

【西依(質問)】
 ■いつまでに、どのような目標を持って、どのように取り組むのか。

【市長(答弁)】
 ■鳥栖駅周辺の短期的な施策の実



県道鳥栖停車場曾根崎線の高橋

都市計画を大幅に見直すとは線引きは廃止するのか

【西依(質問)】
 ■公約「住宅地や企業誘致の用地確保のため都市計画を大幅に見直す。」について、鳥栖市はこれまで「線引き廃止」については、否定的であった。

向門市長の人口10万人構想には、線引き廃止は有効な手段と思いが、市長の見解は。

施に向け、検討委員会開催等に必要経費を提案しており、まずは、鳥栖駅東口設置などの実現可能性について検証することとしております。この検証の中で、今後の進め方等について、検討して行くことを考えております。

【市長(答弁)】
 ■議員ご提案の「線引き廃止」も見直しの方法のひとつに考えられますが、まずは、地区計画制度の運用により、効果的な土地利用が図れるものと考えておりますので、その状況を注視して参りたいと考えております。

本年4月に市街化調整区域における地区計画制度の運用を開始しております。

本制度につきましては、拠点性の高い場所に限定して開発を誘導するもので、無秩序な開発とならないよう、開発の区域や規模、建築物の用途や形態などを運用基準で定めており、計画的な土地利用を図ることとしております。

【西依(質問)】
 ■いつまでに、どのような目標を持って、どのように取り組むのか。任期中に、どこまで、どのように見直すのか。

【市長(答弁)】
 ■都市計画の見直しにつきましては、地区計画制度の運用状況を注視し、土地利用状況を勘案した上で、必要に応じ検討すべきと考えております。

まずは、市内において検討を始めたところであります。